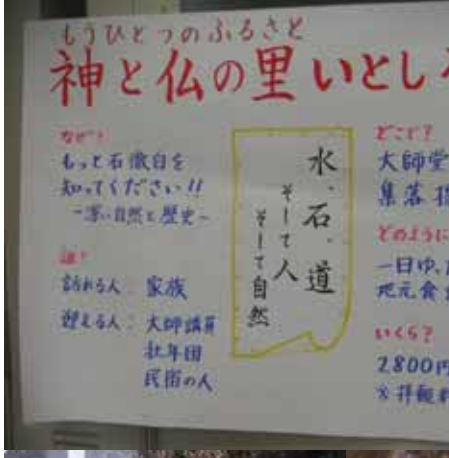




環白山あるもの探し 第二回 郡上 石徹白 2005. 11. 26~27



準備編



集落の中心にある石徹白農村センター
今回の会場となる。



地元実行委員さんとの事前打ち合わせ。

集落の方々もたくさんの資料を手に集まって来た。

あるもの探し事前講習



あるもの探し(地元学)って何？なぜ必要なのか？
調べる時の心構え等についての講習を行います。



その頃隣の台所では、地元の特色有る昼食の準備が着々と進んでいます。



マイタケご飯やニンジン大根。

豊かな山の幸の味わいにお替わりの列が出来ました。



あるもの探し 開始

集落班



地元案内人を先頭に
集落内を散策



大きさや形はまちまちだが、庭先で
雪を溶かしたり野菜を洗ったりと、水
を上手に生活に取り入れている。



庭木の雪囲いにロープの
替わりにツルを用いている。
上手に締め上げられてい
て感心する。



大師堂班



藤原秀衡寄進の虚空像菩薩座像。藤原氏は深く白山を崇敬していた証とされている。

現在に至るまで、石徹白の人たちの手で、大事に守られている。



苔むす大師堂の参道を登る

禅定道・大杉班



その場所にまつわる伝説を書き留めてゆく。一人で歩いているには気付かない石にも、たくさんの謂われがあるものだと感じる。



中居神社から、落ち葉を踏みしめて禅定道を歩く。千年以上続く古道の感触を確かめる。

左)禅定道から石徹白を代表する樹齢1,800年以上と推定される大杉へ。この木はこの場所ですずっと見守っているんだ。



禅定道の途中に残る社の礎石

中居神社班



鳥居をくぐると、異次元の空間が広がる。

参道には杉の巨木が林立し、石段は苔むしている。

藤原秀衡も数々の寄進をしたという歴史の深さに圧倒される。



石徹白といえば、大杉が有名だが、境内にも巨木が数多い。中でも浄安杉といわれるこの木は、樹勢もよく見事だ。



境内を描いた古い絵図



地域資源カード作成



夕食後は、昼に取材して来た「お宝」の写真を見ながら、その謂われなどを一枚ずつまとめてゆく。

分からない所や昼に聞けなかった事を地元の案内人に尋ね資源カードを完成させていく。

各班それぞれ真剣。作業は深夜に及ぶ。

エコツーリングプランの作成



明けて2日目。お昼に地元住民の前で今回の成果を各班毎に発表する。

作業は大詰め。各班で考えたプランを発表するため、模造紙に書き上げていく。絵の才能も必要？

成果発表



地元の方々が発表を聞きに集まって来ました。

若い奥さんや、子ども達も聞きに来てくれています。

女性は、よその土地から嫁いで来た新鮮な目で、聞いてくれています。普段知ることの出来なかった事に興味津々。



総評のあとは、参加者と地元の方々全員で記念撮影。

昔は、行き来のあった環白山の人々が、再び知り合い、新しい友好関係を築いて、互いの地域を見つめ直す機会が持てました。大きな芽が育つよう互いに切磋琢磨していこう！

おわり